

課外授業講師派遣制度、今年度も順調に始まる

平成13年度にスタートした課外授業講師派遣制度は、県内各学校からの要望が強く、今年度も5月から延べ3回・3名の会員を講師として派遣した。

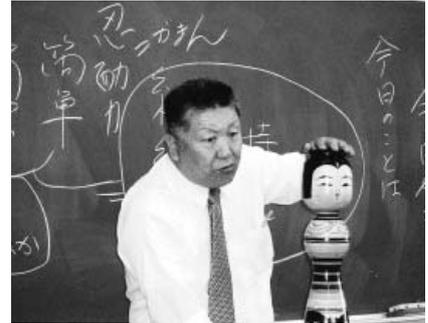
平成19年度 第1回課外授業(5月23日)

萩原 正剛氏
(株)スリー・ティ 取締役会長 講演

5月23日(水)、南砺総合高校福野高校において、今年度初めてとなる課外授業講師派遣授業が行われ、萩原 正剛氏(株)スリー・ティ取締役会長)が、二年生生徒18名を前に、「社会が求める人材」と題して授業を行った。

萩原会長は、社会が求める人材となるためには、「感動・感性・感謝」の三つを持つことが必要であるとし、「素晴らしい芸術品や草花などを見て、感性を磨いてほしい」と説いた。また、「よろしく願います・いらっしやいませ・

おはようございます・ありがとうございます・失礼します・すみません」の「よ・い・オ・ア・シ・ス」を社員に指導しているとし、「あいさつは生活にリズム感を呼び起こす」と授業を締めくくった。



「顔は笑って、腹はガマン」と訴える萩原会長

平成19年度 第2回課外授業(5月30日)

村尾 于尹氏
(株)村尾地研 取締役社長 講演

5月30日(水)、村尾 于尹氏(株)村尾地研取締役社長)が、南砺市立福野中学校において、二年生137名を前に、「福野中学校2年生のみなさんへ」と題して課外授業を行った。

村尾社長は、NHKのプロジェクトXで感動を受けた映像を生徒に見せながら、リーダーたちの挑戦する勇気の尊さを講義した。また、ドーナツの「最後の授業」や「守株のはなし」を引用しながら、「若い時期はがむしゃらに勉強することが大事、努力することが大切」と生徒を諭

した。終わりに、生徒から職業選択の質問があり、「仕事は『氷』と同じ。顔を出しているのはほんの少力で、ほとんどはもぐってみなければわからない。少しでも興味を持ったら迷わないでほしい」とエールを送った。



「結果には右往左往しない」と話す村尾社長

平成19年度 第3回課外授業(6月1日)

稲田 恵子氏
(株)ヒューマ 取締役社長 講演

6月1日(金)、稲田 恵子氏(株)ヒューマ取締役社長)が、富山市立西部中学校において、二年生生徒115名を前に、「社会人としての心構え」と題して課外授業を行った。

稲田社長は、自身が描いた学生時代の未来予想図を紹介しながら、「日頃から、自分の将来を組み立てる『アンテナ』を張っておくことが重要。未来予想図は書き換えても良い」と呼び掛けた。また、「働くことは橋を架けていくこと、

人と人とのつながりを大切にしてほしい」と訴えた。終わりに、面接での事例をもとに、時間厳守や心のこもった挨拶、名刺の受け取り方など、社会のマナーを生徒たちに伝えた。



「挨拶は自分から」と話す稲田社長

課外授業講師派遣制度

平成19年度の課外授業講師派遣事業は、6月から7月までの間、3回にわたり講師5名を派遣し、本年度の派遣回数・人数は延べ6回8人となった。

第4回課外授業 富山県立福岡高等学校

6月26日(火)、藤井 久丈医療法人社団藤聖会理事長が、富山県立福岡高等学校において、1年生生徒120名を前に、「ホスピタリティと職業～医療と福祉の世界～」と題して課外授業を行った。

藤井理事長は、近年の医療現場の現状を紹介しながら、「医療は一人ではできない、チーム医療が重視されている」と説明。「人に感謝されたい、尽くしたいと思う人は、医療や福祉への進路を考えてみては」と助言した。終わりに、「進路の

決定は実際に自分の目で見たり、体験したりすることがきっかけになる。おぼろげでも夢を持つことが大切」と



「専門分野以外の知識が大切」と話す藤井氏

第5回課外授業 南砺市立福光中学校

7月3日(火)、片山 浄見(株)富山育英センター取締役社長が、南砺市立福光中学校において、3年生生徒95名を前に、「豊かに生きる」と題して課外授業を行った。

片山社長は、「自分の夢を持っているか」「自分を変えようとしているか」など十項目のアンケートをとり、「夢や希望を持つことは、自分を高めることにつながる」と説いた。また、学校設立までの体験談

を紹介しながら、「大きな目標をたてて、日々コツコツと小さな目標をこなすことが大切」と呼び掛けた。



「一期一会、瞬間を大切に」と語る片山氏

第6回課外授業 舟橋村立舟橋中学校

今年度第6回目となる課外授業は、7月13日(金)、舟橋村立舟橋中学校で行われた。同校での課外授業は、制度開始以来7年連続での実施となった。当日は「人生の先輩に聴く」のテーマのもと、当会から3名の講師を派遣した。

1年生(36名)

は、小林 祐之氏(しのぶ歯科医院院長)が担当し、「かみあわせと健康」と題して



授業を行った。「願いを強く持つことが大切」と説く小林氏かみ合わせを良くすることで、出せる力が大きくなることを紹介したうえで、「健康を大切にし、それを元に、夢を持って行動を起こしてほしい」と生徒にエールを送った。

2年生(37名)

は、福田 文治氏(株)BOON代表取締役)が担当し、「マーケットを動かすコミュニケーション



」と題して授業を行った。広告会社で勤務した体験を紹介しながら、「時代によってコミュニケーションのとり方も変わるが、媒体はあくまでも人である」と自分らしさの大切さを訴えた。

3年生(42名)

は、高見 貞徳氏(富山検査(株)取締役会長)が担当し、「人生の旬 - 私の心はキラキラ輝いていま



」と題して授業を行った。「人生には旬があることを知っておいてほしい」と伝えた後、「犬も歩けば棒に当たるとあるが、棒に当たることを恐れず、思い切って行動してほしい」と呼び掛けた。

課外授業講師派遣制度

制度創設以来、延べ100人を突破

第7回課外授業 黒部市立鷹施中学校

9月20日(木)、金山 宏明 カナヤママシナリー(株)取締役社長が、黒部市立鷹施中学校において、2年生生徒81名を前に、「付加価値の創造 ~ 夢の実現に向けて」と題して課外授業を行った。

金山社長は、自身がボランティア活動を通して福祉機器事業を始めた経緯を紹介しながら、「『知りたい』と思う人間の本能を大いに活かしてほしい」と呼びかけた。また、「鉄1トン6万円の値段が、車いすに換算すると何十倍にもなる」と付加価値を創り出す大切さを説いた。終わりに、「お金のために働くから苦しい、人が喜んでくれることを考えてほしい」と締めくくった。

なお、今回は、平成13年度の制度創設以来、延べ100人目の講師派遣となった。



命の重さを考えてほしいと説く金山社長

第8回課外授業 富山第一高等学校

9月28日(金)、大橋 聡司 大高建設(株)取締役社長が、富山第一高等学校において、2年生生徒361名を前に、「将来の職業選択に対する心構え」と題して課外授業を行った。

大橋社長は、会社で実践している「分離礼」を紹介し、社会における挨拶の大切さを説いた。また、「言われたことだけをこなす、これは『作業』、目的を理解して働くことが『仕事』。給料にも差が出る」と働く意義を伝えた。さらに、社会が求める人材として、一步前へ踏み出す力、考え抜く力などを挙げ、社会人の心構えを諭した。終わりに、イチローの小学生時代の作文を紹介し、「夢を現実にしてほしい」とエールを送った。



自分の適性を知ることが大切と説く大橋社長

課外授業講師派遣制度

平成19年度の課外授業講師派遣事業は、10月から11月までの間、3回にわたり講師3名を派遣し、本年度の派遣回数・人数は述べ11回・13人となった。

第9回課外授業 富山県立魚津高等学校

10月6日 ...、四十物 直之氏（㈱四十物昆布取締役社長）が、富山県立魚津高等学校において、1年生生徒240名を前に、「先輩に学ぶ」と題して課外授業を行った。

四十物社長は、母校である魚津高校での思い出や進路選択の経緯、中尾代表幹事の座右の銘「正座して師に対す」などを紹介し、後輩たちに母校に誇りを持つことなどを説いた。また、「『一週間で をする』などを紙に書く、そし

て、その小さな目標を成功体験として積み重ねることが大切」とアドバイスした。終わりに、「目標は変わってもよい、自分を信じて頑張っていてほしい」と締めくくった。

「知っていること」と「できること」は異なると説く四十物社長



第10回課外授業 富山県立大泉中学校

10月27日 ...、新田 八朗氏（日本海ガス㈱取締役社長）が、富山市立大泉中学校において、全校生徒165名を前に、「家族、みんなが先生」と題して課外授業を行った。

新田社長は、まず「学校は縁の宝庫、席が隣になる確率は計り知れない」と「縁」の大切さを説いた。また、「社会人は自分のために問題を出して、自分で答を出さなければならない」とし、『守破離』の教えを例に上げ、「基礎づくりは

楽しくないかもしれないが、地道に基礎を固めることが大切」と諭した。終わりに、「失敗はすぐに乗り越えられるわけではないが、やり直しのきかない失敗はない」とエールを送った。



自分の北極星を見つけてほしいと話す新田社長

第11回課外授業 富山市立新庄中学校

11月8日 ...、中尾 哲雄氏（㈱インテックホールディングス取締役会長）が、富山市立新庄中学校において、全校生徒および保護者の約700名を前に、「夢 - 私の歩みきた道」と題して課外授業を行った。

中尾会長は、恩師との出会いを振り返りながら、「希望は遠い星にある。下を見ていると見えない」と生徒たちにメッセージを送った。自身の少年時代の夢を紹介しながら、「夢が人を輝かせ、希望は人を大きくする」と、夢をたくさん持って頑張ることの大切さを説いた。

また、恵みである生き物や、家族・友人などへの「感謝」の気持ちを忘れてはいけないと諭すとともに、「『生きること』とは自分の持っている価値を社会に貢献させること」と生徒に語り掛けた。



感動や感激を積み重ねると人生が豊かになると話す中尾会長

課外授業講師派遣制度

平成19年度の課外授業講師派遣事業は、1月に3回にわたり講師3名を派遣し、本年度の派遣回数・人数は述べ14回・16人となった。

第12回課外授業 富山県立城山中学校

1月25日 林和夫氏（朝日建設㈱取締役社長）が、富山市立城山中学校において、全校生徒380名を前に、「学ぶこと、働くこと」と題して課外授業を行った。

林社長は、「「働く」とは、『傍（はた）を楽（らく）』にすること」と語源を説明しながら、「人の役に立つことが働く意義」と述べた。また、高齢者福祉施設を始めた理由は、母親の介護を経験したことと語り、「生きていることには必ず理由がある。たとえ寝たきりになっても意

味がある」と生命の尊さを諭した。終わりに、Good-byeは「God be with you」（神様はあなたと一緒にいる）のセンテンスを縮めたものと説明し、講義を締めくくった。



知識がないと創造力は生まれないと話す林社長

第13回課外授業 南砺市立福光中学校

1月29日 川合声一氏（日の出屋製菓産業㈱取締役社長）が、南砺市立福光中学校において、中学三年生95名を前に、「豊かに生きる」と題して課外授業を行った。

川合社長は、「なぜ、仕事をするのか。『なぜ』を自分に問うことが大切」と説き、「私は、仕事はお客さんに喜んでもらう事が仕事と考えている」と述べた。また、血筋、地域、知識の三つを「人が背負う宿命（宿命の洞窟）である」と説明し、その宿命を活かして自分自身の役割を

見出してほしいと語った。終わりに、「『他人に変わってください』と願うのではなく、『私が変わる』と思っしてほしい」と母校でもある生徒に対して、エールを送った。



ふるさとを想う気持ちを大切に話す川合社長

第14回課外授業 高岡市立二塚小学校

1月30日 牧田和樹氏（㈱牧田組取締役社長）が、高岡市立二塚小学校において、六学年22名を前に、「「生きること、働くこと - 今、求められる人とは - 」と題して課外授業を行った。

牧田社長は、生徒達に小学校と中学校では何が違うかと問いかけたうえで、「君たちは子どもから大人になる流れの中にいる。どんな大人になりたいかをイメージし、目標を持って、日常生活を送ることが大切」と強調した。さらに「社会は人と人との関係によって成り立ってい

る。人には心（意思）があり、相手の立場に立つことを忘れてはならない。人への気配りや思いやりを大切にすることが重要」と語った。授業終了後、同氏は生徒たちと給食をともにし、子どもたちとの触れ合いを深めた。時間は止められないものと語る牧田社長

